

花の道部門

総 評

7月県内記録的少雨、猛暑の中で、皆さんにはよくぞ花を咲かせ、地域に癒しと潤いを与えていただきました—感謝申し上げます。暑さと乾燥により思うように育たず、毎日、大変なご苦勞があったと思います。

①暑さ対策としても、もっと宿根草に頼ってみては、ボリューム感とリズム感の創出にもつながるのでは、②一年草では乾燥に強いマツバボタン系を活用しては、ジニア、ペゴニアなどは暑さ・渇水に弱い、③地域一体となった取り組み(高波、立野栄町、下伏間江ら)、少人数での20年以上にわたる取り組み(東太美、上大久保ら)、砂漠のような砂地(柳田)・プランターのみ(土田、立野栄町)での大きな花の道創出がスゴイなど、さまざまな感想を持ちました。

お世話している人が元気で、お花も元気をもらい、そしてお花から皆さんも元気を返してもらっているんですね。そうやって人も地域も元気になっていけたらな、来年は少しでも好条件で皆さんがお世話できればなと祈るばかりです。

最優秀賞評

富山市の「興南中学校教育後援会&生徒会美化実践部」が、初の最優秀賞となりました。生徒さんとPTA、地域の皆さんらが三位一体で取り組まれ、人の関わりがすごくいい感じの花の道です。

全体を3基調(暖系、青系、その他)に統一、校章(創造・敬愛・不撓)を3花種でプランターに表現、フェンス・側溝際など地点に合わせた花種配置(ひまわり、サルビア、コリウス等)など、様々な工夫が溢れていました。

なによりも、見た瞬間「あ、清潔な感じがして気持ちがいいな、なんか綺麗だな」と清潔感の満ちた癒しの花壇でした。「ゲームより花が好き」との生徒さんのつぶやきに、うれしくなりました。

(審査委員長 石黒哲也)